第 4 回台－日ナノメディシンシンポジウム（平成 25 年 1 月 13・14 日、中央研究院・台北）
4th Taiwan–Japan Symposium on Nanomedicine (January 13–14, 2013, Taipei)

平成 25 年 1 月 13（日）および 14 日（月）、台北市の中央研究院において、第 4 回台－日ナノメディシンシンポジウム（実行委員長：中央研究院・Peilin Chen 博士）が、新学術研究領域「ナノメディシン分子科学」との共催で開催された。ナノメディシン分子科学領域は、中央研究院と協力してシンポジウムの開催準備を進めるとともに、29 名の領域内研究者および大学院生がシンポジウムに参加し、研究成果発表を行った。

本シンポジウムは、ナノテクノロジーを活用した医療技術の発展を図るため、京都大学・岩田博夫教授が中心となり、名古屋大学・宇理須恒雄教授、台湾・中央研究院・ Chung Hsuan Chen 博士らとともに企画・運営されてきた。平成 21 年に京都において第 1 回シンポジウムが開催され、その後、第 2 回（平成 22 年、台北）、第 3 回（平成 23 年、京都）と会を重ねる中で、研究者間の交流が活発化し、また、両国をまたいだ共同研究が始まるなど、同シンポジウムはその成果を着実に生み出してきた。

今回の第 4 回台－日ナノメディシンシンポジウムでは、まず、台湾の学士院会員であり、中央研究院におけるナノメディシンプログラムのコーディネーターでもある Kuan Wang 博士によって開会の挨拶が行われ、中央研究院を中心とする台湾におけるナノメディシン研究の推進について紹介がなされた。その後、2 日間にわたり領域研究者による講演 17 件を含む合計 34 件の講演が行われた。中でも本研究領域代表の東京大学・石原一彦教授、台湾国家科学委員会副大臣の国立台彎大学・Chung-Yuan Mou 教授、東京大学・樋口秀男教授、上述の Kuan Wang 博士によって行われた 4 件の基調講演は、タンパク質分子のナノメカニクスや生体内における一分子イメージング技術など、興味深い研究成果について拝聴する貴重な機会であった。また、ポスター形式での発表も多数あり、本領域から 12 件の若手研究者による発表が行われた。

今回のシンポジウムに参加して強く感じたことは、台湾におけるナノメディシン研究が基礎および応用の両面で急速に広がりをみせていること、そして、国家を上げてナノメディシン研究を強力に推進しようとする台湾の意気込みである。このような隣国の情況の中で、台湾人研究者との討議および親密な交流を通じて、「ナノメディシン分子科学」領域が総力をもってプレゼンスを示すこができたことは大きな成果であったと感じる。

報告者：広島大学大学院医歯薬保健学研究院・加藤功一（公募班）